

## 宇宙物理學教室だより

**十一月十二日** 學用を滞りて新城上京  
そのついでに、東京物理學校に於て**十三日**、東洋古代の天文學に就て講演、

**十一月十四日** 新城教授歸洛。同日山本教授、臺灣より歸洛

**十一月十七日(木)** 午後三時半より第四回雜誌會

臺中に於ける水星の太陽通過觀測報告……………山本 一清

**十一月二十一日** 午後二時より花山山頂に於て道路開通式舉行。師團長、工兵隊長外關係將校下士約30名、及び七十五歳の老翁中井氏始め土地寄附者六名を主賓として、主人側としては荒木總長新城教授外學内關係教官約百名、當日降りみ降らずみの悪天候であつたにかかわらず盛會であつた。花山山に關する地圖其他外國の諸天文臺の寫眞等を天幕内に陳列し、尙四時屈折外二三の中村反射鏡などを陳列した。(不幸にして雨天の爲めに望遠鏡は使へなかつた)。開會は少しおくれたが、新聞社の寫眞班の包圍をうけて先づ新城教授挨拶をかねて花山山に天文臺を建てるにいたつた経過の爲、次に荒木總長の挨拶、石井工兵隊長の挨拶、中井翁の懷舊談あり、共に祝杯を舉げ、四時半一同記念撮影をして散會した。

**十一月二十四日(木)** 第七回雜誌會  
量子論最近の趨勢(6)……荒木 俊馬

**十一月二十四日夜** 日本測地學會委員

會其他の學用を滞りて新城教授上京。

**十一月三十日** 春秋社大思想エンサイクロペヂヤ記念の爲め山本博士は大阪中央公會堂に於て、其他の諸名士と共に出演、「星の美論」を講演。

**十二月二日** 新城教授歸洛  
山本教授は同日午後六時より京都岡崎公會堂に於ける春秋社の宣傳講演に於て「宇宙の有限性」に關する講演をなして五百の聴衆を酔はしめた。

**十二月十四日** 一恒星の金星掩蔽觀測のため、山本教授は午後九時半京都出發、倉敷天文臺へ。十五日朝三時倉敷着。あひにく五時半には雲片のため掩蔽觀測不能。しかし直ぐ後に晴れたので、種々試験觀測。同日午後三時歸洛。

年末の多忙期にも拘らず、上田助教授を始め多くの人々が天文年鑑の校正に忙殺されてゐる、天文年鑑は實は昨年の末頃に1927年度の分を出版するつもりで印刷に着手したのであつたが、初めてのこゝまで仕事がなかなか進まず、尙ほ、印刷して見て、いろいろ計畫に不便や不備な點を見付け出したため、止むなく、1927年度のものも中止して了つた。そして、次の1928年度の分を初稿として出すため、夏の頃から原稿の作製に取りかゝつた。こんどもやはり多少おくれたが、目下、大車輪で進行中であるから、多分1月中には市場に出る見込み、——ちよごボケツトに収まる形の、體裁の好いもので、一ヶ年間、天文家たちの伴侶となるであらう。